



令和 5 年 7 月 3 1 日
(一財)海上災害防止センター

モーリシャス国における潮流観測及び IMO レベル 1 訓練の実施について

令和 5 年 4 月に本邦で開催したモーリシャス国 OSPRM Experts*研修に続き、一般財団法人海上災害防止センター (MDPC) では、独立行政法人国際協力機構 (JICA) の技術協力プロジェクトである「モーリシャス国流出油対応に係る体制能力強化プロジェクト」の一環として、4 名の職員が令和 5 年 5 月 1 日(月)から 7 月 29 日(土)までの約 3 ヶ月間、モーリシャス国へ渡航して次の潮流観測及び IMO レベル 1 訓練*に準拠した流出油防除訓練を実施しました。

* Oil Spill Preparedness and Response Management Experts : 流出油事故への準備及対応の管理に係る専門家

* 国際海事機関 (International Maritime Organization) が設計及び開発したモデルカリキュラムに基づく油汚染への準備、対応及び協力に係る実務者を対象とした訓練

今回の潮流観測は、モーリシャス国の首都であるポートルイス港及びその周辺海域を調査海域として実施しました。実際の観測においては、当該海域を 5 つに分け、5 月 15 日(月)~20 日(土)の 6 日間に計 280 ポイントでブイを投入し、ブイ投入ポイントにおける流向及び流速を調査しました。調査により得られたデータを解析し、本事業で新たに作成したモーリシャス国の ESI Map*に潮流データとして盛り込むとともに、実測値を用いた流出油拡散シミュレーションを作成しました。

* Environmental Sensitivity Index Map (環境脆弱性指標地図) : 油汚染を受けた場合に「地形」、「生物」、「施設等」の 3 つの観点から漂着油の影響を大きく受ける場所を簡潔な色やマークで示した情報図

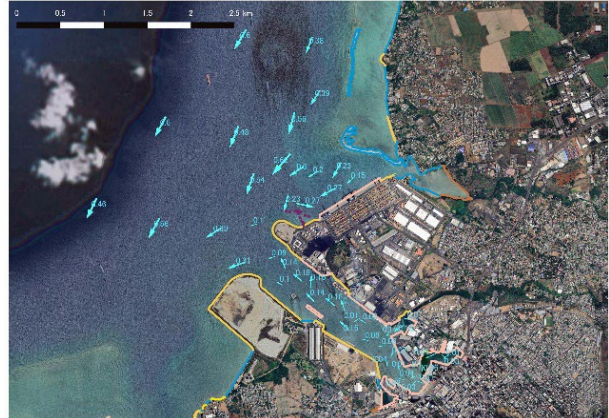
IMO レベル 1 訓練は、ポートルイスに近い MMTA(Mauritius Maritime Training Academy : モーリシャス国海事訓練学校)の講堂において、モーリシャス国の政府機関に務める職員の中から実際に油流出事故が発生した場合に防除作業に直接・間接的に関与することとなる政府関係者 32 名に対し、7 月 10 日(月)~14 日(金)の 5 日間実施しました。なお、今回の訓練については、OSPRM Experts に対する OJT でもあることから、講義は OSPRM Experts が行い、MDPC 職員が補足サポートする形式で実施するため、訓練開始までの約 1 ヶ月間で講義と実習の準備を行いました。

訓練初日の開講式には、モーリシャス国環境省の RAMANO 環境大臣及び在モーリシャス国日本大使館の川口大使からスピーチを頂きました。訓練カリキュラムは、午前は座学、午後は午前の座学内容を実践するフィールド訓練で構成され、フィールド訓練ではオイルフェンスの展張、油回収装置の取り扱い、簡易油回収装置の作成方法、海上浮遊油の回収方法、海岸清掃などを学び、最終日には先に作成した実測値に基づく流出油拡散シミュレーションを用いて図上演習を行い、ポートルイス周辺の脆弱性の高い海域に対し、事前の TSF(Tactical Sheet Folio : 流出油防除戦略戦術図)を作成しました。訓練最終日の修了式では、5 日間の訓練を受講した 32 名に対し、訓練修了証を手渡すことができました。

次回は、令和 5 年 10 月に再び渡航し、ポートルイス港周辺の地域関係者 (燃料ターミナル会社、船舶修理会社、漁業従事者等) を対象にワークショップを開催し、基本的な油防除の手法を紹介すると同時に、今回作成した TSF について地域関係者の承認を得て、当該地域の事前計画図として完成させる予定です。



潮流観測の様子



潮流観測結果（下げ潮時）



RAMANO 環境大臣のスピーチ(訓練開講式)



川口大使のスピーチ（訓練開講式）



OSPRM Experts による講義



海上浮遊油の回収訓練



万国旗型油吸着材の作製



油吸着材の展張



図上演習



萩原理事による修了証授与



IMO レベル 1 訓練の参加者(32 名) (修了式後)